

自ら進んで運動についての課題解決を目指す生徒の育成

— 自己の課題発見と合理的な解決に向けたICTの活用を通して —

特別研修員 保健体育 高岩 徹(中学校教諭)

〔目指す生徒像〕

自ら進んで運動についての課題解決を目指す生徒

生徒が作成した「ストーリー」

〔ICTの活用〕

実践例：陸上競技「ハードル走」

START



1

課題・抜き足

抜き足の方向が参考動画と違う

2



3

練習で意識すること

抜き足の角度が90度になるようにする。参考動画と同じ形を目指す。

4

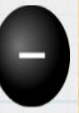


5

振り返り

抜き足の形は参考動画と同じ形ではなくなった。次は踏み切りの位置に注意しながら、インターバルが同じ形を目指す。

6



○最初の自分と練習後の自分を比較し
新たな課題発見。

振り返り

6



この踏み切りが近いよ。

なるほど。だからインターバルが3歩でいけないのか。

○自分や仲間の運動の様子を動画により
可視化し協力しながら課題発見。



最初の動画

1

課題

2

参考動画と比べると、抜き足の角度が違うな。

○参考動画と自分の映像を比較し
的確に課題を発見。

【手立て① 自己の課題発見】

○局面ごとの上達を実感して
違う局面でも意欲的に課題解決。

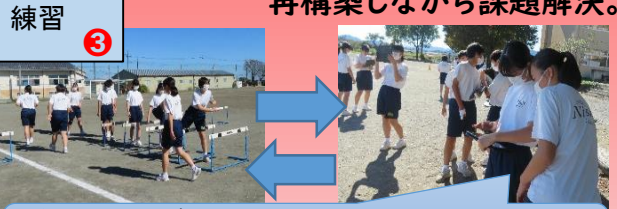


練習後動画

5

抜き足は完璧だね。次の課題は踏み切りだよ。もっと遠くから踏み切れば速くなるね。

○課題と練習の合理性を求めて
再構築しながら課題解決。



練習

3

抜き足の角度よくなったよ。次はもっと低くすると更によくなると思うよ。

練習で意識すること

4

○同じ課題をもつ仲間と協力して
課題解決。

【手立て② 局面ごとの合理的な課題解決】

オクリンクで「ストーリー」を作成

START

最初の動画

1

課題

2

練習

3

練習で意識すること

4

練習後動画

5

振り返り

6

—

生徒の実態

- 自分の課題を把握しても言葉にできていない。
- 仲間の課題を見付けても具体的に伝えることができない。

教師の願い

- 明確な課題をもってほしい。
- 自ら進んで運動に取り組んでほしい。

成果

- ICTを活用したことで、客観的に自分の動きを分析し、考えるようになり、課題が発見できるようになった。
- 仲間から局面ごとのアドバイスを受けることで、合理的な課題解決を目指すことができた。
- 「ストーリー」を作成し、自分の成長を蓄積することで、主体的に活動する生徒が増えた。

課題

- ICTを活用する際に運動量が少なくなった場面があった。
- 局面ごとの練習の場面では、局面と局面がうまくつながるための課題発見や合理的な解決方法を工夫することが必要である。